◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「未来の願いに税金を」

清瀬市立清瀬第三中学校 3年 黍野 茉那

私の祖母は今、がんで入院しています。以前はとても元気で、近所の友達と毎朝体操をしたり、私が小さい頃は、映画やミュージカル、テーマパークと色々な所に連れて行ってくれました。

幼稚園や小学校の行事も必ず応援をしにきてくれて、終わった後「頑張ったね!」と食事に連れて行ってくれたり、祖母との思い出は数えきれないほどあります。

私が小学四年生の終わり頃、新型コロナウイルス感染症対策の為、学校のさまざまな事が制限され、行事の保護者等の参加はできなくなっていました。祖母も「また、頑張っている姿を見に行きたいのにね。」とがっかりした様子でした。

そんな頃、祖母は「最近、疲れやすいのよね」と話をしていたので、心配していました。そして、検診を受けた所、がんが見つかりました。ステージ4だった為、家族はもちろん私もかなりショックでした。しかし、祖母はあきらめずに入院をし、抗がん剤の治療や放射線の治療をはじめました。

私は、ふと思いました。入院費や高額の治療費はどうしているのだろうと。母に聞いてみると、後期高齢者医療制度や高額療養費制度というものがあると知りました。

後期高齢者医療制度は、七十五歳以上は一割負担を支払うという事。また、高額療養費制度は、医療費が一ヶ月で上限額を超えた場合、その超えた額のお金が払い戻される制度の事です。そして、これらは健康保険の加入者が支払う保険と税金でまかなわれていると知りました。

税金というと、私は買い物をする時の消費税くらいしか知りませんでした。祖母の病気をきっかけに医療や年金、介護、福祉などさまざまな事が税金で支えられていることを知りました。

そして、税金はお年寄りだけではなく、私の身近な所でも沢山使われていて「税金は社会を支える会費のようなもの」と言われている意味がとてもよくわかりました。

今、祖母は病気と戦っています。税金がなかったら、祖母の治療も高額であきらめなければならなかったかもしれないと思うと、税金のありがたみをもものすごく感じます。

また、元気になった祖母に会える事を願いながら、このような税金の大切さをより多くの人に知ってもらいたいと思いました。